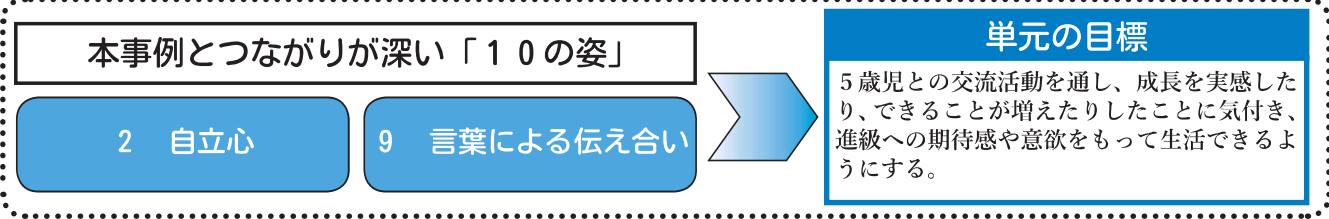


事例⑧ 1年生・2月
期のねらい「新しい1年生の気持ちや立場を想像して関わり、進級に向けての期待感をもつ。」
「児童が意欲的に取り組む交流活動を目指してー交流活動に向けた支援の工夫ー」



子どもの姿

子どもたちは、この1年間、上級生や地域の方々の温かい励ましや支援によって、一人ひとりが安心して学校生活を送り、学びを深めてきました。1月に実施した「昔あそびの会」では、様々な遊びを通して、地域の方々と楽しく交流したり、できるようになったことが増えて喜んだりする様子がみられました。

身近な人々との交流を通して、自分の思いを伝え合うことを大切にすることで、交流してくれた人々への尊敬や感謝の気持ちをもつ児童が増えました。できるようになったことが増えた自分たちが、今度は新しい1年生のために教えてあげたい、一緒に遊びを楽しみたいという思いにつなげ、児童のわくわく交流会への意欲を高めてきました。

学びのはじまり

- 児童に入学前の自分の姿を聞き、小学校のイメージや入学した時に感じた思いを話し合いました。教室に掲示した1年間の思い出の写真を振り返り、成長したことやできるようになったことを思い出せるようにしました。
- なぜ成長を感じたのか、できるようになったことが増えたのかを問いかけると、多くの人との関わりがあったことに気付くことができました。「6年生が掃除の仕方を教えてくれた。」「おじいさんやおばあさんが昔遊びを教えてくれた。」
- 今度は、自分たちがしたいことやしてあげたいことを考えることで、新しい1年生との交流会への計画がはじまりました。「ぼくたちもだれかを笑顔にしたい。」「新しい1年生になにかできないかな。」

学びの広がり、学びの深まり1

「子どもの様子」

準備の中で伝え合い 協力し合う1年生



わくわく交流会の内容



リハーサル後の伝え合い

にここに笑顔で、話してくれたところがよかったよ。

「教師の お願い・思い ◎配慮事項」

◎相手意識、目的意識をもたせながら、児童のやってみたい、楽しんでもらいたい気持ちを大切に計画を立ててほしい。

◎1年生の生活は、児童が園児に伝えたい内容を話し合いながら決められるようにした。

児童：「ぼくは、学校でパソコンを使っていることを伝えたいよ。」
「休み時間の遊びを伝えたら新しい1年生も楽しんでもくれると思う。」
教師：『新しい1年生がもっとわくわくする工夫ができないかな』
児童：「生活クイズにしたら、新しい1年生も楽しんでもくれそう。」
「〇×で答えるのはどうだろう。」

◎児童役と園児役に分かれて、お迎えからお別れまでの流れをリハーサルし、よい関わり方をお互いが伝え合うことで、児童が安心して園児と関われるようにした。

「〇〇さんが、たくさん聞いてくれてやさしかった。」
「手をつないで歩いてくれてうれしかった。」

10の姿との関連、自覚的な学びへ向けたポイント

① 入学してからの1年間を振り返り、自分自身の成長に気付く（2 自立心）
交流活動を行う前に、教室に掲示した1年間の思い出の写真をしながら振り返り、成長したことやできるようになったことを実感できるような活動を取り入れています。“5歳児さんのために”行う交流活動ですが、小学校生活の中で、様々な人々に支えられながら、成長した自分自身に気付く活動でもあることがわかります。

② 友だちと考えを出し合うことで活動が豊かになることを実感する（9 言葉による伝え合い）
5歳児さんに紹介したい内容を子どもたちと考えたり、リハーサルでは友だちのよいところを見つけてみんなに伝えたり。友だちと考えを出し合うことで、活動がより楽しく、豊かになる経験を積み重ねています。

学びの広がり、学びの深まり2

「教師の お願い・思い ◎配慮事項」

交流会の本番 やさしく関わる1年生



昔遊び コマまわしの披露



ランドセルたいけん

何回も練習した
らでできるよう
になったんだよ。

重いから、けがをしない
ようにゆっくり背
負ってね。

◎昔遊び紹介を通し、児童が自分自身の成長を感じてほしい。
◎技を披露するだけでなく、できるようになった技のコツを伝えられるように助言した。
◎お店屋さん形式で場を設定することで、お客さん（園児）が楽しめるように、活動を工夫した。

◎使命感をもち園児と関わってほしい。
◎一人一役の役割分担と担当の園児とペアで活動することで、責任をもって取り組んでほしい。
◎トイレの案内等も児童が行うようにした。園児が安心して活動に取り組めるよう男女別にペア組みをした。

「教材等の工夫」

場の設定

下駄箱、水道、机やいす等、普段1年生が使用しているものを5歳児にも使用してもらうことで、園児が小学校での生活を具体的に知ることができるようにした。児童も、慣れ親しんだ場所での活動であるため、自信をもって園児と関わる事ができていた。

教材・教具のくふう

小学校クイズでは、学校の様子がわかる写真をプロジェクターに映し、園児が学校の様子を具体的に知ることができクイズ解説を行った。
交流よりも自分の楽しさを優先してしまった児童には、相手意識をもたせるために、教師が園児役を行い、一緒に楽しむための関わり方を助言した。

交流までの流れ

交流会の呼びかけ（11月）→管理職から地域の保育園・幼稚園に取組のねらいや時期など、概要を電話で伝える。
参加園の決定（12月）→管理職から、電話連絡。参加園には、参加人数や小学校までの移動手段を聞く。
1年生担任で打合せ（1月）→交流会の内容検討、学級の担当する園の決定など学年会で打合せを重ねる。
参加園に詳細連絡（2月）→学年から交流会の流れや集合時刻などの詳細を記したお便りを各参加園に送付する。
交流会実施（2月）
振り返り（2月）→保育園・幼稚園の先生に会って対面で感想を伺う。学年内で交流会の振り返りを行う。



自分のランドセルを使って説明する様子



小学校クイズ解説の様子

学習の評価方法、児童の変容

◎話し合いやリハーサルの中で、自分の感じたことや気付いたことを発言する姿を見取る。
◎活動の様子やつぶやきを見取り、活動後の振り返りカードで気付いたことを言葉で表現する。

◎園児とのペア交流で、相手の気持ちに寄り添った関わりができた。「またあそぼう」と笑顔で見送る児童の姿が多く見られ、園児の入学や自分たちの進級を楽しみにする児童が増えた。